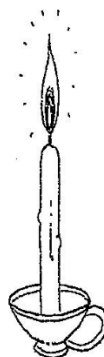


東中国キリスト者

障害を共に学び共に担う会

シャローム



第一六二号

講演会特集号

二〇二四年十二月十八日発行

目次

説教……………	岡山教会牧師 廣田和浩	(1)
	鳥取信和教会牧師	
	塚本望	(2)
講演会……………	土佐教会牧師	
	成田信義	(3)
会計報告……………	宮脇俊昭	(9)
編集後記……………	難波幸矢	(10)

説教

日本基督教団 岡山教会

牧師 廣田和浩

「すべての人に仕える」

マルコによる福音書9章33節〜37節

イエスは、徒歩で一緒に移動していた弟子たちの会話の内容について、「途中で何を議論していたのか」と弟子たちに問われました。「だれが一番偉いか」という議論のテーマから推察しますと、弟子たちはかなり白熱した議論をしていたと考えられます。イエスは一緒に歩いてきたわけですから、弟子たちの話が聞こえていなかったはずはありません。ですから、弟子は隠している必要はないと思われませんが、イエスの問いに弟子たちは黙っています。そこでイエスは、12人の弟子を呼び寄せて「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」と言われました。弟子たちが、出会

っている人々のことではなく、仲間内での序列ばかり考えていたことに対して、イエスは苦言を呈されたといえるでしょう。そして、イエスは実際に一人の子どもを12人の弟子たちの真ん中に立たせ抱き上げて、「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れなさい」と言われたのでした。ここで、イエスはその場にいた一人の子どもと関わりを持ってもらえることがわかります。しかし、弟子たちが、そこにいた子どもに関心を持っていたかどうかはわかりません。弟子たちが無関心であったので、イエスはあえて子どもを弟子たちの真ん中に立たせたのでしょう。

かなり前のことになりましたが、教会学校のキャンプで小学生十数名を数名のスタッフで引率したことがありました。キャンプ場まではバスと電車を利用しました。キャンプの帰りのことです。駅を出てバスの到着時刻まで時間があつたことから、バス停近くの歩道に腰をおろして、参加者とキャンプの話で盛り上がっていました。する

と、「(こ)はどごだと思っっていますか」と声をかけられた方がありました。振り返ると、白杖を持っておられる方が立っていました。続けて「点字ブロックに座っていると困ります。」と話されました。私たちが座っていた場所は、駅の改札へと誘導がしてある点字ブロックの真上だったのです。私たちは急いで、その場を離れ、お詫びをしました。黄色で突起のある点字ブロックに座っていたながら、その点字ブロックの役割、そして必要としている方々がいらつしやることを認識していませんでした。

岡山市内の国道250号の原尾島交差点に、「点字ブロック発祥の地」と刻まれた記念碑があります。ときどきこの交差点を通るのですが、この記念碑を見るたびに、先ほどお話ししたキャンプのことを思い出します。本当に恥ずかしい出来事です。イエスに抱き上げられた子どもを見た弟子たちも、恥じ入ったに違いありません。

説教

日本基督教団 鳥取信和教会

牧師 塚本望

「神に喜ばれる信仰生活」

ローマの信徒への手紙12章1節～8節

パウロが書いた手紙の中で、ローマの信徒への手紙だけが、自身が設立していない教会へ宛てた手紙です。また最初の組織神学の書とも呼ばれています。

この手紙は3部構成になっており、第一部(1～8章)は、福音とは何か、人はなぜ福音を必要としているのか、罪人はどのようにして義とされるのか等々、「教理」について書かれてあります。第2部(9～11章)は、ユダヤ人は神から見捨てられたのか、そうではなく、ユダヤ人も異邦人もなくすべての人が救いに与ること、「イスラエルの救い」について書かれてあります。第3部(12～16章)は、いかに生きざるべきかという

「適用、実践」について書かれてあり、12章は、その冒頭部分です。

旧約時代、神への礼拝の時には、罪に対する贖いとして「全焼のいけにえ」が用いられました。神はそれによって、「自身とイスラエルとの契約を確かなものとされました。」「全焼のいけにえ」は、「神に喜ばれるいけにえ」であり、「聖なる生けるいけにえ」です。パウロは「自分の体を神に喜ばれるいけにえ」として、神に献けて下さいと懇願しています。神に自分を委ねることが献身であり、なすべき礼拝です。

さらに続けて、「この世に倣ってはなりません」と勧められています。これは、「外側に自分を合わせてはならない」という意味です。その一方で、「自分を変えていただき」とあるように、主体が自分ではなく、神によって変えて頂くことが大切です。「外側に自分を合わせる」のではなく、「内側から神によって変えて頂く」のです。

「何が神の御心であるのか」、「何が善いことなのか」、「何が神に喜ばれることなのか」と

「何が完全なことなのか、これらを知る」ところが、真の信仰生活です。そのためにも、さらに神に近づく必要があります。全身全霊を神に捧げて、神に礼拝を捧げることが、今の私たちに求められています。

神への献身、神によって変えて頂き、そこからさらに発展して、一人一人が教会の一部とされ、個々に与えられた賜物を用いることが求められています。

私たちは「一つの体」です。キリストにあって一つです。ここがまず土台です。体は多くの部分から成り立っていますが、すべての部分が同じ働きをしていません。しかし一つです。「各自は互いに部分」とは、「互いにそれぞれのための器官である」という意味です。つまりそれぞれが互いのために存在しているのです。「預言をする人」、「奉仕をする人」、「教える人」、「勧める人」、「施しをする人」、「指導する人」、「慈善を行う人」と、人それぞれ異なった賜物を持っていますが、それは互いのための賜物であり、一人一人が与えられた賜物をただ用いること、与え

られた使命を果たすこと、これが献身であり、礼拝です。イエス様のように「慎み深く」、互いに愛し合い、仕え合いながら神に従うことこそが、クリスチャンとしての「神に喜ばれる信仰生活」なのです。



講演会

日本基督教団 土佐教会

牧師 成田信義

「息子の『障がい』をも賜物として」

マタイによる福音書25章14節〜27節

はじめに

26歳の息子和斗は、「自閉症スペクトラム」という発達障がい、比較的重度な障がい者です。高知市立養護学校（現在、市立特別支援学校の小・中・高を卒業して、現在は地域の作業所に「生活介護」という立場で通っています。牛乳パックのリサイクルや、空き時間にはスウェーデン刺繍という手芸をしています。現在、三人暮らし。親として、彼と共に生きてきて、彼をおしていろんな所に連れて行ってもらった。出会いを与えられています。今日はこれらのことをとおして学んだり感じていることを、聖書に聴きながらお話しさせていただきます。

I、和斗の障がい

まず、彼の障がいについて、最低限のことだけ触れたいと思います。「発達障害」という言葉は、ご存じかと思えます。生まれつきの脳神経の発達アンバランス・でござい、本人をとりまく環境や周囲の人達との関わりからの不一致から、社会生活に困難が生じる障がいです。見た目ではわかりにくいことが多く、本人の努力不足だとか親のしつけの問題とか、誤った解釈や批判を受けることも少なくありません。

人間誰しも、得意なことや不得意なことがありますが、とりわけ発達障がいのある人は、得意なこと不得意なことの差が極端に表れる傾向があります。また、他の多くの人と比べて違った物事の感じ方や考え方をする傾向が強いです。そのため、勉強するにしても、仕事するにしても、その理解や進め方、物事への集中力や持続力に偏りがみられます。対人関係でも個別の配慮や工夫が必要なきが多く、生活に支障をきたしやすいのです。

発達障がいとは、一説によると次の三つ

に分類されます。「自閉症スペクトラム」、「学習障がい」、「注意欠如・多動性障がい」です。この三つの分類から、さらに主だった特性によって細かく分類されます。多くの場合、発達障がいとはそれぞれが複合的だったり、特性や症状も異なるため、特定の障がい名に当てはめるのが難しいことも少なくありません。

彼の場合の主だった具体的症状は…

- ・視線を合わせることに、自分の気持ちを伝えること、友達関係を上手く築くことが困難。

- ・言葉の発達に遅れや偏りが見られることもある。言葉の遅れがある場合は、質問に対してオウム返しをしたり、単語だけで話をしようとする。会話も一方的になりがち。遊びのルールやその場の空気を理解できなかつたり、集団での共同作業に困難を示したりする。

- ・音、におい、接触刺激、痛みなど特定の感覚に特定の過敏性を示したり、逆に鈍

かつたりもする。また、日常と異なる場面への対応が難しいことがある。

- ・生活習慣や食事など、特定のものにごだわりを持ったり、ジャンピングをしたり、手のひらをひらひらさせたりする特有の行動がよく見られる。

彼の場合、こうした自閉症スペクトラムの特性に、知的障がいも伴っていると診断されています。

II、彼と共に歩んできて想うこと

第二子の子育てだった連れ合いと私にとつて、何か育てにくさを感じ始めたのは、二〜三歳頃からでした。三歳児検診で、「自閉的傾向があります」と言われ、医療機関に通院。地域の保育園に入園する際、「障がい児枠」を希望するにあたって「療育手帳」の発行を受けました。

誤解を恐れず正直に申し上げますが、ショックでした。連れ合いとは学生時代からの知り合いで、二人して、障がいのある子ども達の遊び場や教会学校でボランティア

イアをしていました。車椅子の子供、コミユニケーションが苦手な子ども、ほほ寝たきりの子ども……、みんなで一緒に遊ぶことをとおして、よい出会いを与えられていました。それぞれ生きにくさを抱えていても、一人ひとりにキラリと光るものがあった、神さまに愛されているかけがえのない存在だと心から思っていました。障がいゆえの偏見や差別は絶対に許せないと、正義感に燃えていました。

ところが、いざ我が子がそうなった時にショックを受けたこと、それがショックでした。偽善者だと自分を責めました。ボランティアで出会った友達や親御さん方のことを思い出して、申し訳なく思いました。一方、障がいがあるのだと正式に診断され、そうだったのかと、これまでの育てにくさが腑に落ちた感じがしたのも正直なところでは。こうして、彼にある「障がい」と彼自身と向き合っていくことになりました。

彼が小二の時のことです。北海道在住当時、礼拝準備に忙しい土曜日の午後、ちよつと目を離したすきに、和斗が家からいなくなつたことがあります。これまでも、何度かそういうことはありましたが、その日は捜せど捜せど見つかりません。近所の方や教会の人達も捜してくれましたが見つからず、警察に捜索願ひを出しました。

秋とはいえ日が暮れるとかなり冷え込みます。室内着のままです。一人で外出したことはありませんし、お金も持たせていません。話しかけられても、まともな受け答えは出来ません。パニックになると、この世の終わりのような声で泣き出してしまいます。お巡りさんが、あの手この手で捜索してくださいました。夕方になると、ラジオ番組で情報提供が呼びかけられました。さらに、警察大の登壇。彼の衣類を嗅いで、なぜか石狩川の川沿いを捜索し始めました。お巡りさん曰く、「こういうケースでは川沿いで発見されることがある

からね……」。その時には、さすがに最悪の事態が脳裏を横切りました。

夜九時過ぎでした。札幌中央警察署に

和斗らしき迷子が保護されているとの連絡が入ります。かけつけると、なに食わぬ表情の彼がいました。警察から事情を説明されました。隣の札幌全日空ホテルの二階喫茶店前のソファーにいとところを、心配になったその店員さんが通報、保護してくださいったとのこと。幸い事無きを得ました。ただどうやって車でも一時間程度かかる札幌全日空ホテルに行ったのか未だにわかりません。我が家では誰もいったことがありません。一人でJRかバスかに乗ったのか、はたまた誰かについていったのか、連れられて行ったのか……。今なお我が家の謎のままです。

ただ、大変迷惑をおかけしたことだったので、その時に心底学んだことがあります。それまでも、障がいに対する周りの無理解や心ない言葉、蔑む振る舞いに、傷つくことが少なくありませんでした。そ

のような相手に対して攻撃的になったり、一線を引いて避けたりもしました。その手のごとで親として傷つくことにビクついてきたこともありました。しかし、和斗は自分達家族だけや身近にいる理解者だけで育てられているのではなく、社会からも温かく見守られていたのです。勿論、社会は障がいに対して十分ではありません。けれども、社会は傷付けませんが、家族や理解者の限界を超えて、大ききようなかな見守りでもあったのです。そのことを身をもって体験しました。

Ⅲ、主イエスにとって、「いのち」とは？
「障がい」とは

ここで聖書に聴きたいと思います。聖書は、一人ひとりの命をどのように理解しているのでしょうか。そもそも私達一人ひとりとは神様からどのようなまなざしが注がれている存在なのでしょう。今日は、主イエスが語った一つの譬え話に聴いてみたいと思います。

その譬えは、とてもシンプルです。

あるところに、お金持ちの主人がいて、旅に出かけることになりました。主人は僕たちを呼んで、それぞれにお金を預けることにします。「タラント」とは、諸説ありますが、当時の社会での国家規模でお金の単位。私達の感覚では兆とか京とか、見たことも手にしたこともない、生涯どれだけ警戒しても使い切れないような、何度人生を繰り返しても余りある、とんでもない高価な単位だと思ってよいそうです。

さて、主人はある僕には五タラント。次の僕には二タラント。もう一人の僕には一タラントを渡します。それぞれ別々にタラントを預けて、「後は頼んだよ」と命じて旅立ちます。旅から帰ってきた主人は、僕たちを集めてそれぞれに託したタラントを精算します。

五タラント預かった僕、二タラント預かった僕は、タラントをしつかり使って倍にしました。主人は大変喜びます。けれども、一タラント預かった僕はとい

うと、厳しい主人のことが恐くてタラントを全く使うことなく土の中に隠していたので、そのまま返します。すると、主人はかんかんに怒って言いました。「せつかく預けたのに、どうして何にも使わなかったのだ。私が厳しくても恐くても、銀行に預けるとか、何かのために少しは使おうとはしなかったのか……。」「この僕は主人のもとから追い出されてしまいました…。という譬えです。

主イエスが語っておられることは、人間は神さまからそれぞれ特別なタラントを託された存在なのだということです。一タラントとか五タラントとか金額の大小は、このさいむしてよいと思いません。この人には一タラント、あの人には五タラントと、それぞれ異なる、その人のためだけの特別なタラントが預けられているということです。つまり、英語の「Talent」。

この「タラントン」というギリシア語が語源とされているとおり、一人ひとりにタラントンとして託された才能、個性、秘められた可能性は、その人が自由に存分に用いるために託された、他の何物にも代えられない尊いものであること。しかも、託されたタラントンは用いさえすれば倍返しとなつて、さらに豊かな実を結ぶのだといえます。

私達一人ひとりには、初めからそのように創られているのだと、主イエスは語っておられます。神さまの前に、私は私というタラントンなのです。これは、聖書が物語る一つの人間理解だとも言えるのではないのでしょうか。

人と比べてうらやましく思つてしまうことがあります。しかし、だからといって、その劣っている部分は取り替えなければならぬのでしょうか。障がいのある人のタラントンは、障がいのない人のタラントんに比べて本当に劣っているのでしょうか。理想的なパーツを寄せ集め、組み立

てれば、私達は素敵な人間になるのでしょうか。完璧な人が集まり、欠けや弱さ、悩みを持つ人がいなくなれば、みんなが幸せになるのでしょうか。誰もが人間が理想とする人間となれば、この世界は平和になるのでしょうか。

主イエスはそのようには考えていません。神さまのまなごしからは外的なことで、私達には何物にも代えられない特別なタラントンの託され、そのタラントンを存分に用いることが願われているのです。そのタラントンは、理想パーツだけで出来ているのではないのです。一見見劣りして見える欠けや弱さもまた、タラントンの一部なのです。相手から寛容や謙遜、命そのものを引き出す、タラントンの尊い一部なのです。障がいもその一部であるだけなのではないのでしょうか。

私達は、私というタラントんで生きることを喜ばれ、私というタラントンが十分に用いられるために愛されているのです。そして、周りの一人ひとりも、その人のた

めだけの特別なタラントンを託された存在なのです。命に形があるのだとすれば、それがタラントンなのかもしれません。息子と共に歩んできて、私にも託されているタラントンについて、このように受け止めていきたいと思います。

この社会の中で、私達の間で時に怪しく危うくなる、このタラントンの確かさ、神さまのまなごしの確かさについて、主イエスが語っている箇所があります。「律法と神の国」について、神さまの戒めである律法が、いかに大切かつ正確でなければいけないかを訴えている光景で、主イエスは「律法の文字の二画がなくなる」ことがあつてはならないと、その厳格さを強調しています。律法全体に基礎付けられていることとは何なのでしょう。それは私達のものそのものです。いのちは望まれて創られ、いつくしまれるべきものとして、播種がしてはならないのです。それゆえに、いのちを区別したり、とりこぼす、あらゆる

悪しき力から解き放たれて生きて欲しいと熱望されています。文字の二画すらなくなつてはならないものとして正確でなければならぬのは、いのちへの、この神さまの側の厳格さなのではないでしょうか。いつくしまれるべき、私達のいのちのかけがえのなきです。文字の二画すらかけるべきではないものとして大切にされているのは他でもない、息子のいのちであり、私のいのちであり、私達一人ひとりのいのちなのです。

いのちのかけがえのなきを危うくする現実があります。けれども、その危うさから私達を開放すべく、主イエスは真顔で、「律法の文字の二画がなくなる」ことがあつてはならないと言いつつ切つていられるのではないのでしょうか。タラントンの譬えをとおして、私達の側の不確かさや愚かさ、淀まない、真実なる神様のまなざしが、一人ひとりのいのちに注がれているのではないのでしょうか。

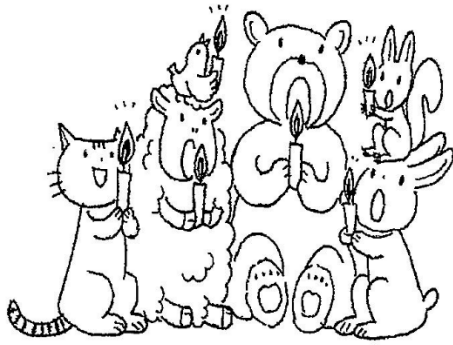
IV、息子の「障がい」をも賜物として

彼の小学部卒業式に出席した時のことです。市立養護学校に転校して二年、晴れて卒業の日を迎えました。

どこの卒業式もそうでしたが、卒業生は実に凛々しく輝いて見えました。ここに通い卒業することになった経緯や障害は様々です。出会つて共に学んできた仲間の中にいる彼は、家で接する姿とはまた別人に見えて不思議でした。卒業証書授与、校長より一人ひとりに手渡されます。一人言を言いながら、びよんびよん飛び跳ねやしないかとヒヤヒヤでしたが心配無用、驚きました。けれども、もつと驚かされたのは校長の言葉でした。一人ひとりの卒業生の名前を呼び、誰だつてかならず持つている、その人の良いところを一言云い添えて、卒業証書を手渡ししてくださいなのです。「成田和斗くん、あなたのおだやかなまなざしは、みんなの心をなごませてくれました。おめでと〜うございます」

そのように、彼のことを彼のことを見ていてくださったのかと思うと、自分が褒められる以上に嬉しくて、思わずビデオカメラを持つ手が震え、目の前がぼやけてしまいました。ちょっと持ち上げすぎとちがいますかと、人は言うかもしれせん。そんなものが厳しい社会で何の役に立つのかと、綺麗事として聞き流す人もいるでしょう。けれども私自身、全くもつて、そのとおりでした！ と共感させられました。そういえば、第三者の方に宣言していただいた時、私の日常に埋もれていた、彼にも与えられていたはずの存在価値、彼のタラントンそのものを、あの一言でお祝いしていただいた気持ちになりました。他の卒業生一人ひとりもそうでした。

いのちそのものが放つ光と、その大なる肯定感に、卒業式全体が包まれていました。埋もれていたものがやさしく掘り起こされ、弱きも良いところもひっくり返るめて、一人ひとりの人間として、一人ひとりのタラントンを、みんなで誉め讃え合う雰囲気



に溢れていました。そんな人間祝詞式でした。
 息子には、確かに障がいがありますが、障がいによる生きにくさが彼のすべてではありません。息子の障がいをも賜物とされているのだと、今も彼からそのことを学んでいます。それと同時に、私というタラントンの受け止め方も、大切だよ、生かされているよ、必要とされているよ……と、彼に促され続けています。

会 計 報 告

2024年9月～2024年10月

会計 宮脇俊昭

収 入		支 出	
会費32名	64,000	会議費	4,510
会費累計(51名)	(17,2000)	交通費	役員会(9/20) 2,510
		会場費	役員会(9/20) 2,000
		シャローム	9,448
献金		送料	鳥取支部へ 1,380
10/14席上献金	44,513	謝礼	シャローム説教 5,000
個人献金(1件)	1,000	用紙代	3,068
		講演会	111,211
預金利息	13	講師謝礼	50,000
		講師交通費	40,000
		礼拝説教謝礼	10,000
		奏楽者謝礼	3,000
		会場費	5,000
		鳥取支部講演会補助	3,211
		活動費	20,000
		事務費(会費振込手数料・振込通知料)	643
小 計	109,526	小 計	145,812
前月より	762,000	次 月 へ	725,714
合 計	871,526	合 計	871,526

[会費・献金の納入を、感謝申し上げます。]
 個別の領収証を希望される方は、遠慮なくお申し出ください。従来通り送付いたします。よろしく願いいたします。

10月末現在資金残高	
定額預金	500,000
普通預金	83,872
振替口座	42,828
現金	99,514
合 計	725,714

(年会費) (敬称略・順不同)

(日キ岡山教会)板野昇子、今城信子、尾島夫規子、蔵知武、佐々木まゆみ、富田茉莉子、橋本まり子、畑起三郎、浜井昭代、堀恭次・幾美、山口明・弘子
 (日キ倉敷教会)赤澤靖子、小島文枝、更井勝子、笠原恵美子、鈴鹿しずか、藤岡シゲ子
 宮脇俊昭、樫野省子、森山和子、安久康子
 (日キ湖山教会)岩佐洋子、伊井尚子、岡田由美子、久野芳枝、田口久恵、前田恵、前田美喜子、森下久美子、森田生子、諸家香代子、山内英子

(献金)

(倉敷教会)森山和子

編集後記

難波幸矢

愛するキ障共会員の皆様、いかがお過ごす
ですか。2024年ももう終わろうとしています。
ます。2024年は皆さまにとつてどのような
年でしたか。

私は少し「年」を感じました。忘れやすいこ
ろではありません。しよちゆう探し物です。
手帳を何処へやったか結構探しても出てきま
せん。広くもない2部屋をウロウロ。ウロウロ。
手帳に音が出るものでもつけておけば、見づ
からない時には携帯を鳴らしてみると、何処
かからピーピー聞こえてきて、「あつたあつた」
というふうになるのにと思っています。

脚もおぼつかなくなりました。息子の方が先
にそのおぼつかなさ気が付いて、せっかく日
本キリスト教団の総会に教区から選ばれてい
たのに「行くな、行くな」駅の長いホームで転
んだらどうする。皆に迷惑をかけるぞ」等と
言い、結局「老いては子に従え」で他の方に行つ

て頂きました。正解だったと思います。皆様
もどうぞお気を付けてください。

それにしても変な詐欺が出てきて特に高齢
者が引掛かりやすいとか。永年一生懸命貯
えてきた老後のための貯金を騙し取られるケ
ースなどのニュースを見ると本当に気の毒。
「取られるお金など無い」というような、無神
経な言葉だけは発しないようにと思います。
話はすっかり変わりますが、少しづつとい
うか、それなりに早くと言いますか、世界中が
戦いの方向に走り出していると思いませんか。
日本は先の戦争の時、どのようなことがきつ
かけで、走り出していったのでしたっけ。
同じ過ちを繰り返すことなく、小さい言葉で
も「否を」否」と声に、行動にしつつ歩んでま
いりましょう。まとまらない文章でごめんな
さい。

どうぞ、皆さま、良い年をお迎え下さい。



「シャローム」 第一六三号

発行日 二〇二四年十二月十八日

発行所 東中国キリスト者

障害を共に学び共に担う会

発行人 事務局長 難波幸矢

〒七〇三ー八二六五

岡山市中区倉田六五八ー八一

電話 〇八六・二七六・二四六七

振替 〇一三二〇・〇・九〇七六九

加入者 「東中国キ障共」